

国内 IGF 活動活発化チーム第 64 回会合発言録

2025 年 8 月 25 日

加藤： そのまますぐ活発化チーム会合の方に行って大丈夫そうですね。はい。そうですね。お残りいただける方はぜひお残りいただいて、定例の活発化チームの連絡会合を今からスタートさせていただきたいと思います。改めて鎌田課長、太田様、立石さん、大変ありがとうございました。非常に多くの聴衆の方が出して盛り上がる勉強会で良かったと思います。ありがとうございました。それでは第 64 回の活発化チーム会合を開催させていただきます。皆さんちゃんと聞こえておりますでしょうか。今日霞が関の電話ボックスのようなサテライトオフィスから参加させていただいてまして、マイクの調子はどうかですけれども、ちゃんと聞こえておりますでしょうか？

山崎： はい問題なく聞こえています。

加藤： はい。ありがとうございます。それでは山崎様から用意いただいたスケジュールに沿って進めさせていただきます。まず日本政府からのご報告ということで、最近のいろんな情報を総務省の方お願いできますでしょうか？

寺村： 総務省の寺村でございます。7 月 1 日付で飯田の後任の特別交渉官ということで、私がその後を継いでいるという状況でございます。本日の報告としましては、今後 IGF に向けて今 WSIS を今後どうしていくのかという話になってくるわけですが、今いくつか動きがあることをちょっとご紹介したいと思います。まず丁度明日なんですけども、APT (Asia-Pacific Telecommunity) の方でこの WSIS+20 についての Web のダイアログが開催されるということになっています。ここで日本のスタンスについて我々として報告する立場を表明するというのが一つと、もう一つあって、これをもとに APT の意見が取りまとめられていくという形になるかと思います。ここでは実際は私が _____ 【音声途切れ】を解消して、グローバルな課題を解決するというのがまず一つ。それからマルチステークホルダーによるアプローチが必要であるということ。それから、この WSIS の活動の継続ということを明日の APT のところでも訴えていきたいというふうに考えております。さらに今後のスケジュールとしましては、今やっと具体的なスケジュールがわかってきまして、まずニューヨークで WSIS+20 レビューの第 2 回準備会合というのがニューヨークで 10 月 15 日に開催されるということで、その前の 13 日から 14 日、ここでコンサルテーションが行われ、メンバー国とそれからステークホルダーによるコンサルテーションが行われて、10 月 16 日から 17 日それから 20 日から 21 日というところでインフォーマルのネゴシエーションが行われるという形になっております。ということで、12 月の 16-17 日で WSIS+20 のレビューが行われるわけですが、その前の事前のところから、我々としても早めに情報収集してなるべくきちんと対応していきたいというふうに考えておりまして、この 10 月中旬は私が出張して対応するという形で考えていきたいと思って

います。ということでこれからも IGF が継続されるように働きかけていきたいと思います。以上です。

加藤： どうも寺村さん、ありがとうございました。これからぜひ活発化（チーム）会議でも情報提供よろしくお願い申し上げます。今の寺村様のご発表の件について何かご質問ございますでしょうか？いかがでしょうか？特にございませんか。もし後で思いついてぜひこれを聞かせていただきたいということがあれば、もし寺村さんがまだおいでになれば、改めてお願いしたいと思います。

寺村： はい最後までいますので大丈夫です。

加藤： それじゃ次はですね、寺村さん MAG の方はフォローはされていないんでしょうかね。

寺村： そういった意味では MAG の方も一応（フォロー）しています。

加藤： そういうことですね。

寺村： 先週（の会議は）飯田が基本的に対応していましたけれど、私も一応傍聴という形ではい。そこは今まで____【音声途切れ】

加藤： 寺村さん、最後の方、音声途切れたように思いました。

寺村： 失礼しました。MAG のミーティングが先週ありました。まさにオーストラリアのウィリアム・リーですか、彼が仕切って我々も意見交換を行ったところなんですけども、我々のスタンスを飯田の方から伝えて、それが全体に共有されているので、他の国も基本的には同じようなことを言ってるなというのは印象として残っているところでございます。簡単ですけども。

加藤： どうもありがとうございました。皆さんそれで追加よろしいでしょうか？それでは加藤からもう一度 MAG 関係であったことを少し補足的に申し上げますと、まず先週 21 日に MAG の中の戦略ワーキンググループ、ストラテジーワーキンググループが 21 日にウェビナーを開催しました。いつもの MAG メンバー、Chris Buckridge とか Amrita とか皆さんよくご存知の方々が中心になって、スイス政府の方とか何人かがウェビナーで今の WSIS+20 に関して、いろいろな意見を述べるということでございました。内容的にはこれまでの流れ通り、IGF は継続すべきであるとか事務局機能を強化すべきであるとか、そういうようなお話がありました。それから MAG の関係で覚えてらっしゃると思いますが、6 月頃に WSIS+20 で検討すべき事項を決める Elements Paper という、いろんな検討要素を書いた文書のレビューっていうのが行われています。これもいろんな方からのコメントがあってやり取りがあると思います。それから三つ目ですけども、MAG から正式についてということではないんですが、もし寺村様が情報お持ちなら教えていただければと思うんですが、WSIS+20 のレビュープロセスに関してゼロドラフトが 8 月 29 日頃に出るんじゃないかということを聞いております。寺村さん、そういう感じで情報正しいでしょうかね。

寺村： 具体的な日にちは聞いてなかったんですが、8 月中にゼロドラフトが出るというふうには聞いてます。今のところまだ、我々のところにゼロドラフトは届いてません。

加藤： そういうことですね。それがあると、それを元に、先ほどの要素文書の中の何が採用されているのかとか、そういうことをチェックするタイミングになって、9 月はその議論があって、そして 10 月に今寺村さんからお話があったように 10 月 13 日・14 日に公開コンサルテーションセッションがあり、10 月 15 日に国連の本部で第 2 回の準備会合がオープンに行われると。その後さらに 16-17 日とか 20-21 日に非公式の交渉があって、その後皆さん注目されているのが、10 月の 27-28 日にアイルランド・ダブリンで行われる ICANN の年次総会でも、この件の議論が出てますね。はい。10 月 27-28 日の ICANN 会議でもこの議論が行われるということがかなり正式に予定されていると。これで大体今見えているスケジュールが終わって 12 月の国連の総会になるという感じでしょうかね。では寺村さん、もう一度もしコンファメーションがあれば。

寺村： 私としても認識として合っています。

加藤： そういうことですね。このスケジュールも出していただいた通りだということですね。

寺村： はい。

加藤： あともう一つ MAG の関係で言いますと、今日はタイミング的にご報告できないタイミングになっちゃったんですが、明後日の 27 日にリーダーシップパネルの会議が確かありまして、27 日の夜中、日本時間の夜 11 時だったと思います。

寺村： すみません。報告忘れていました。はい。リーダーシップパネルがあります。

加藤： これは総務省からもお出になるというふうに理解しております。

寺村： 総務審議官の今川が発言予定です。

加藤： そうですね。はい。ということでこれも非常に重要なインプットだというふうに理解しています。

寺村： まさに WSIS の継続と、あとは恒久化のところまで触れるような形で発言予定です。

加藤： ありがとうございます。というようなのが私の理解していることで、MAG としてまとまって何かすごい議論してるっていうよりは、MAG とか MAG の中の戦略ワーキンググループですね。大体言いたいことはもうわかっていて、それをいろんなところで訴えていくという、そういうプロセスになっているように思います。

寺村： はい。正確には、今川が参加するのは 26 日のセッション、聞こえていますかね？

加藤： はい聞こえております。

寺村： すみません。今川がセッションで参加するのは 26 日、明日の深夜になるので、正確には 27 日の多分 3 時過ぎとか 4 時過ぎ、4 時頃に多分発言することになると思います。

加藤： わかりました。はい。26 日と書いていただいた方がいいのかな。ありがとうございます。私からは以上ですが、引き続き私とか寺村様へのご質問がもしあれば、この段階でお受けしますが、いかがでしょうか？

もしなければ、引き続き山崎さんに NRI の関係お願いできますか？ペーパー準備とかあると思いますが、お願いできますでしょうか？

山崎： NRI につきましては、前回会合から今回までに会合まだ 1 回もなく、ご報告できることがほとんどないんですけれども、先ほど加藤さんがご報告された Elements Paper、6 月の IGF 前に出たものですが、それに対して NRI として、リアクションをまとめた意見書をまとめて提出しています。それはもう公開されてるんで、後々メーリングリストの方に共有しておきます。ですからひょっとしたら、次回ゼロドラフトが出たらまたそれに対しても意見を出すかもしれませんが、現時点ではそれをやるという話は伺っていません。

それと、次回会合は明日の夜 8 時から開催される予定ですので、次回の活発化チーム会合ではその内容をご報告できる予定です。NRI に関しては以上です。

加藤： どうもありがとうございました。NRI に関して山崎さんへのご質問でございますでしょうか？いろんなところで NRI が重要だっていうことをますます強調していただいてますが、NRI としては今まで通りの活動を継続しているということだと思います。特によろしいでしょうか皆さん。それでは IGF の今年の報告会とかですね年次会合をどうするかという件についてですが、これその後何かアップデートとかご意見皆さんございますでしょうか？

山崎： 日程調整とか始めてなきゃいけないんですが、遅くなってしまっていて、進んでないです。どういう形態で開催するかというのだけは決めて、そうすればあとは機械的に発表予定者の日程を調整するだけなんですけれども。6 月に IGF がありまして、ちょっともう 2 ヶ月ぐらい経ってしまってるんですが、報告会のみ取り急ぎやるか、5 月に 1 日だけやりましたけども、年次会合をやるか、IGF 報告会と年次会合をまとめてやるか。あと 10 月 11 日から 14 日までネパールカトマンズで APrIGF が開催されますけども、その報告会と一緒にやるか、それとも 5 番目ですけども、IGF 報告会+国内 IGF 年次会合+APrIGF 報告会の三つまとめてやるか、この 5 通りです。いずれも開催しないというのは多分ないと思うので、この 5 通りのいずれかと思うんですけれども。皆様の希望というか、これがこうしてほしいというのがございましたら、ぜひお願いしたいんですけども。

加藤： 皆さん、ご意見ございますでしょうか？いかがでしょうか？整理しますと、まず国内 IGF の年次会合は今年一度は少なくともやらないと NRI としての役割を果たせないというかそういうものだと思うんですね。APriIGF を報告会という形でやるかっていうのは、タイミング的に合えばそれをやるということでそういう時期に年次総会をやるべき。それから報告会という意味では簡単な報告は前回の活発化チームの会議でも出られた方の感想のようなものもあったので、それをもっと膨らませるかどうかというそういうイメージで。そういうことでいうと、タイミングを今からで言うと 10 月の APriIGF の前にするのか後にするのかっていうことですが、その辺いかがでしょうか、皆さん。そうすると、10 月の 11 日から 14 日の後だとすると、今度は先ほどの 12 月の国連総会での WSIS+20 の結論が出るタイミングとの関係ということになると思うんですね。そうですね。それとあと WSIS+20 の 12 月 16-17 日でしたっけ、その前か後かという（ことになりますね）。山崎さん、年次総会は今年中にやらなくてもいいんでしたっけ？

山崎： そうですね、国連のドキュメントを確認しないといけないんですけども。

加藤： 1 年内に必ずやるっていうことだったかどうかですけれども、

山崎： そういう意味では 5 月末に小規模会合をやってますので、それは年次会合と言い張れば既に開催したということは言えるんじゃないかと思いますが、それは皆様の見方、取り方によりましかもしれません。ですから、それを既にやった上でもう 1 回やるかどうかというのも、その判断ポイントかなと思います。

加藤： はい、ありがとうございます。皆さんいかがでしょうか？ご意見いただけませんか？

前村： 確認なんですけども、事前会合はレポート作って、提出するみたいな流れになってたんでしたっけね。であればもう気にしなくていいんじゃないのかなというふうに思うんですね。

山崎： レポートはまだできてませんが、作って提出することはもちろん可能です。

前村： 事前だからといって何でしょうね、オープンコールの上でやった、アジェンダ募集してやったというところぐらいまでは体裁はあるんじゃないかと思うので、年次会合と何かを分かつものがあるわけでもないようにも思いますんで、いいんじゃないのかなと思うんですけどね。

加藤： 今のこのページの後ろの方に、なぜ二つのことを書いていただいたかというのと、今年、やはり WSIS+20 の結論が出ないとなかなか今後の話とかしにくいのかなっていうのをずっと常々思っておりまして、そういう意味でもタイミング的に微妙だになっていうのがあるからこういう質問をさせていただいてるんですけれども、いかがでしょうかね。もし、示させていただいて、許されるのであれば、堀田さんいかがですか。

堀田：来ると思ってました。12 月の国連の後っていうのは、多分テーマよりもこの後どうなるか、どうするかっていうのが中心の話になると思うんで、せっかく IGF がもう 6 月にあったんだからテーマにチューンして、9 月の終わりの方とか、APrIGF の後でもいいかもしれないですけど、テーマにチューンしてっていうのを 1 回やった方がいいのかなっていうふうに思います。以上です。

山崎：加藤さん、今何か喋っておられたようなんですけどミュートにできてしまったので、もう一度お願いできますか。

加藤：失礼しました。今の堀田さんのご発言に対して、それは_____【音声途切れ】だけではなくて年次総会としてテーマを決めて 12 月以前にやった方がいいというご意見ですね。

堀田：そうです。

加藤：わかりました。ありがとうございます。他の方がいかがでしょうか？今の堀田さんのご趣旨はよくわかりましたので、いかがでしょうか？9 月末っていうのは物理的に山崎さん可能ですか？ある程度セッションの募集も考えるとすると。

山崎：報告会だけであれば、ただそれでも皆さんの予定なかなか合わないと思うんで、かなり奇跡に近いかもしれませんが、とりあえず日程調整をすることは可能です。

加藤：繰り返しになりますが、堀田さん今のご趣旨は報告会だけじゃなくて、年次総会も合わせてっていうことですか。

堀田：いや年次総会の方はそんなに必要だっていうふうには言ってなかったです。既に 1 回やるっていうことであれば、報告会だけでもいいのかなと思います。

加藤：わかりました。とりあえず 9 月末までに報告会をやったらどうかというそういう趣旨ですね。

堀田：はい。

加藤：わかりました。山崎さんいかがでしょうかね。そう言うなら時間調整して、何時間かの報告会を 1 日でできるように思いますけれども、いかがでしょう。

山崎：立石さんが手を挙げてらっしゃいますね。

立石：私もそれそのものは賛成なんですけど、ちょっと 9 月いっぱいとなると私がちょっと個人的にはスケジュール的に厳しいかなってただそれだけです。すいません。

山崎：では APrIGF の前後のご都合はいかがでしょう？

立石：10 月に入ると、第 2 週あたりだと個人的には何とかかなるかなっていう感じですね。

加藤： その週は APrIGF ですよ。

立石： 終わりの方ですよ。週末からですよ。だからすごい限られるんですけど、6、7、8 ぐらいなら何とかなるかな。

山崎： 直前ですかね。他の方にも聞いてみましょうか？

立石： はい。申し訳ないです。

加藤： 10 月の 6 か 7 か 8 日ってということですか。

立石： 9 月の後半からぎっちり入っていてすいません。

加藤： 皆さんいかがですか。ここにいらっしゃる方々、何かその辺。皆さん 11 日の土曜日から APrIGF だから、少なくとも 9 日か、場合によると 10 日の朝には出ないといけないですよ。その 11 日からに間に合うためには、ということは 6、7、8 のどれかってことですかね。皆さんいかがでしょうか。もしその辺でっていうことであれば、それで日程調整を回してこの日がいいというのをメール上で確認して準備を進めるということを進めたいと思いますが、特に 6 月オスロにいらした方々、いかがですか。

堀田： 私は問題ないです。

加藤： ありがとうございます。

前村： ちょっと苦しいんですけど、そこなら空いてますって感じ。前の週も APrIGF の後にも延泊してアクティビティがあるんで、その週は奇跡的に空いてるみたいな週になります。

加藤： イメージとして午後半日で大丈夫ですかね。

山崎： 長さは何人登壇するかっていうのと、お一人がどれぐらい喋るかにもよりますけども、半日に収めることは多分可能だと思いますね。

加藤： そういう感じですよ。私は 6、7、8 大丈夫ですが、できれば 6 日の午後は避けて 7 か 8 でお願いしたいと思いますが、どうしてもっていうなら 6 日の午後でも調整はできるかもしれないです。いかがでしょうか。このあたりご都合が悪いとか、何か別の大事な会議があるとか、そういうご指摘ございますでしょうか？

前村： 私事ながら、火曜日、さっきここは奇跡的に空いてると申したところなんで舌の根も乾かぬうちなんですけども、火曜日は 4 時から 5 時半ぐらいまではちょっと駄目なんですよ。それ以外だったらどうにかなるんで、部分的でご容赦いただけるのであれば火曜でも大丈夫ですって感じです。

加藤：わかりました。ありがとうございます。他、皆さんいかがでしょうか？それでは6、7、8をとりあえずブロックしてご発言いただく方に手を挙げていただいて、それぞれどれぐらいか喋っていただくことで時間調整をメール上でやるということでしょうか？午後半日 3 時間、最悪 3 時間半か、4 時まで 4 時間だとしてもその程度ということで、特にご異論がなければそういう形で進めさせていただいて、ご都合確認してメール上で確認させていただくということにしたいと思います。それでよろしいですか？

立石： お願いします。

加藤： はい。そのようにさせていただきます。今寺村様からもいろいろ情報いただいたんですけれども、これ以外にいろんな会議イベント等情報共有いただくようなことございますでしょうか？特にございませんか。先ほど ICANN の会議のお話もありましたが、例えば ICANN 関係も何か大きな進展があるとかそういうことは特にございませんか。

山崎： ICANN じゃないんですけども。APrIGF の直後、10 月 16 日木曜日、10 月 17 日金曜日の 2 日間にわたってですね、日仏インターネットガバナンス会議というのが予定されています。まだ確定してお知らせするという段階に行っていないので、日程だけにしますけれども、フランスからフランスの国内 IGF の方もいらっしゃって、あと学術関係の方が主に企画されてるようなんですけれども、フランスの ccTLD、Afnic と、日本側は慶應義塾大学で会場として、在日フランス大使館広尾の方にありますけれども、その 3 者が共催という形になるそうです。加藤さんの名前も登壇者として挙がってたようなんですけれども。決まったら正式に打診が行くと思います。

加藤： はいありがとうございますちょっと私もそれ失礼、失念しておりまして、実は先日慶應 WIDE の鈴木先生でしたっけ、日本側で事務局やってらっしゃるので伺ったところです。日程としては 16 日と 17 日で、16 日は午後からだということでそれで 17 日金曜日夕方までということだそうです。それでいくつかセッションを考えていて、まさに前にこの活発化チーム会議に出てらっしゃる方で何人かお会いした Lucien さんなんですね。フランスの NRI でも活発にされてる方ですが、彼がいろいろと企画をされていて、私が聞いているのだけを申し上げますと、17 日金曜日の午後 1 時からって言われてますが、IGF 関係のことについて喋ってくれというふうに言われておりまして、スケジュールだけ押さえているところです。内容的には IGF の会議にも非常に近い内容をマルチステークホルダーのいろんな議論の話だとかいうようなことも触れられるふうには聞いております。山崎さんにリマインドしていただいてありがとうございます。もしさらにいろんなことが分かれば、私が伺った時点ではまだ正式なスケジュールとかが決まっていなかったの。あと会議自身はおそらくこれインビテーションオンリーなんですかね？そんなに大きな会議になるようには来てないです。フランス大使館でおっしゃった通り、フランスか大使館でおそらく 50 人とか、多くても 100 名以内の会議になったなというふうに思ってます。山崎さん間違っておりますでしょうか？

山崎： いや、大きくは外れてないですね。私が Lucien さんから伺ったのは、フランス大使館には 100 人入る会議室があるということでした。だからどのぐらい皆さんがいらっしゃるかによりまずけれども、そんなにクローズにしなくても何とか入るんじゃないかと思いますね。

加藤： わかりました。これ具体的にスケジュール等あれば、このリストにメールしますし、山崎さんとも相談して、なるべく皆さんにも知っていただくようにしたいと思います。何かご質問ございますでしょうか？もしなければこれ以外に何かあるとかいうようなことがあれば。いかがでしょうか？特にございませんか。それでは勉強会、今日海底ケーブルの件で非常に盛り上がって、多くの方、参加いただいたんですが、次回ですが山崎さんの方からもしあればですけども、なるべくこの活発化チームの方は皆さんいろいろご提案いただいてですね自薦他薦ぜひお願いしたいというふうに思っております。今一つ何人かの方で検討していただいているのが、前に読売新聞にいらしてこの 8 月からだったですかねつい最近朝日新聞に移られた若江さん、女性で非常にこういうデジタル問題にお詳しい方でいろんなところにご発言とか書物にもされている方ですけども、若江様から最近のデジタル問題についてお話しただくってという話をしております、ご本人はご了解いただいて今日程調整中、最終確認中でございます。今候補として挙がってるのはそれだけですが、この場でもぜひいろいろご推薦いただいてですね。本当はもう待ち行列になるようなものが一番いいと思うんですが、ご推薦とかご提案ございますでしょうか？

山崎： 立石さんがいくつかお持ちのようです。

立石： まだ準備が全然なんで年内かギリギリかひょっとしたら年越しかなというところで今考えてるのが、戦後 80 年というか昭和 100 年のご存知の方はご存じですけど、JAIPA が毎年、今年は例外的になぜか種子島だったんですが、沖縄でやってるのって一つは沖縄戦の話ですね。今の時期はテレビでもしょっちゅう戦争のことやってるんですけども、とはいえおそらくどんどん皆さんの記憶の中から薄れていって。その話っていうのはどうなんだろうっていうことをすごくいつも感じます。海賊版にしても前村さんもそうですけども、海賊版とか今年オンラインカジノ。オンラインカジノも実は全然収まってなくて、後半戦これからあるかも知れないとか、結構な確率ではあるんですけど、そうなると通信の秘密とそれからやっぱり民主主義みたいな話っていうのはちょっと一回考え直さなきゃいけないのかなと思ってます。保坂雅康さんという歴史家の方のインタビューをたまに聞いていて、戦後の戦争体験の共有があまりにもなされていないということで、日本の市民社会は成り立ってないんじゃないかみたいなことを、直接的にそうはおっしゃってないんですけども、すごくそれを感じましてたまたま勉強してることもあるのでまとめられたら、実は私よりも沖縄に関してはおもう 80、おいくつの方なんですけども、大先輩がいらっしゃる、私の家族でお世話になってる方なんかにお話をいただければいいのかなと。戦後 80 年という昭和 100 年と全く違う意味だということであることはおっしゃっていたので、今日出てました、今日ちょっと話したウクライナの戦争の問題とか、日本の安全保障の形もちょっと考えなければいけないのかなというふうな形で、できれば年内か年明けぐらいまでに何か構想できればなというふうに考えてます。以上です。

加藤：ありがとうございます。ぜひ大体この辺で発表いただけたらとかそういうのがあればご提案いただければと思います。どんどんメーリングリストに書き込んでいただいてスケジュール調整が早めできるように皆さんぜひお願いしたいと思います。事務局山崎さん前村さん皆さんは関係者でいろいろどうしようかなっていうのがありまして、できれば皆さんに持ち寄っていただいて、お互い情報交換する場と考えていただけたらありがたいと思いますのでよろしくお願いします。いかがでしょうか今日のところはこれぐらいで、後で次回の日程に関して先ほど申し上げた若江さんの日程が最終確認、もうすぐ決まると思うんですが、最終調整してご連絡させていただきたいというふうに思っております。ということで勉強会はそんなところでよろしいですか？前村さん、よろしいですか、こんな感じで。

前村：加藤さんありがとうございます。私も同じようなことを考えていまして、加藤さんや山崎のところにこういうのいかがですかみたいなことと言われるんですけど、ぜひとも活発化チームのリストに出していただいて、みんなでそれいいねとかいうふうな感じでみんなで考えるというふうな形の方がいいんじゃないのかなと思ひまして。とはいえこの場では参加者の方は17名と見るところなので、メーリングリストにもそういった打ち出しをした方がいいかなと思ひてるところでした。加藤さんありがとうございます。

加藤：はい。ぜひそういう形でみんなで自分のいろんな案件をご紹介いただく場だと考えていただいてよろしくお願いします。それではそういうことで次APrIGFについてでございます。これ、私から一言まずご報告申し上げてよろしいでしょうか？このメーリングリストにこうなっておりますとこれでよろしいでしょうかと7日間の間にコメントくださいということと、それから最終的にこういうご提案しましたっていうことを書かせていただいた通りなんですけれども、いろんな方から、日本でもう一度APrIGFを主催してもらえないかとかですね、開催したいとかっていうご意見があって、それで関係する方々ともご相談したんですけれども、今8月、ごめんなさい。7月末まででしたっけねAPrIGFの2026年の主催について、プロポーザルを出してもらいたいということ、それから2027年について開催の気持ちがあるというのであればその気持ちと趣旨を表明してほしいという、関心表明(EoI)を出してほしいという、そういう要請があってそれに答える形で、APrIGFを主催するとなると、活発化チームは今まだ任意団体ですから、我々だけでやりますっていう答えも言えるわけではございませんので、JPNICさんとJAIPAさんにご相談して、JPNICの江崎様と、それからJAIPAの久保様、それから活発化チームってことで私が私の名前で3人の名前で2027年に日本でAPrIGFを開催したいという意図がありますということをお知らせさせていただきました。今APrIGFの事務局から、開催したいってことであればもう少し詳しい内容を提案していただけないかということの質問を受けたんですけれども、それに対してもちろんこういうことで計画したいってことなんだけれども、2年先の話なのであまり具体的な提案を今の時点で書くよりも、12月のWSIS+20の結果IGFが今後どうなっていくかっていうことが見えた2026年来年の1月以降、早いうちにそういう、さらに具体的な提案をさせていただきたいということをお伝えして、それで了解したということをお知らせいただいております。現状活発化チームの関係でそういう状況になって

おりますということで、次の 12 の項目にあります本チームの今後にも若干関係するんですけども、この前提として日本の活発化チームがさらにいろいろと連帯を高めて、法人化の話もこれまでもありましたけれども、そういうことも踏まえながら、2027 年に向けて APriGF を日本で開催するためのいろんな準備をスタートするという状況になったというふうに理解しております。ということで、前村さんとか立石さん、JPNIC さん JAIPA さんの立場でいかがでしょうか。何か付け加えていただくこと等ありますでしょうか？それとこれに当たって、いろいろと日程の調整も含めて堀田さんにも大変お世話になったので、堀田様からも何かコメント等あれば後でお願いしたいと思います。

立石： 私の方は特にございません。2 回目の(Apr) IGF ですね。頑張ってやりたいと思います。皆様ご協力のほどよろしくお願いします。以上です。

加藤： 前村さんとか堀田さん何か付け加えていただくようなことはございますか。

堀田： 堀田ですがよろしいですか。

加藤： はい。お願いします。

堀田： 周辺情報になるかもしれないですけど、先ほど出たように 10 月の 11 から 14 日にネパールで APriGF があります。ここ 2 回ほど MSG (Multi-Stakeholder Steering Group) っていうチームのミーティング出てるんですけど、先週の時点で現地参加 100、250 名って言ってましたね。それがさらに増えていると思いますけどという状況を聞きました。それで運営そのものに関わらないと入ってこない情報もあるんで、この選挙委員会に今回入らせてもらって、今回チェアと副チェアの選挙があって、今週木曜日が候補推薦締め切りということで進んでいます。この中でいくつか情報があって、選挙人＝投票できる人が 72 人います。そのうちインド、バングラデシュ、パキスタン、ネパールあたりが多くて、つまり南アジア、遠くて、そこだけで 43 人選挙人がいて、要は 6 割がそのあたりの人なんですね。東アジアの CJKT 合わせて 3 人しかいないですね。日本はゼロなんですけど。ですから多分通るのも、チェアや副チェアもそのあたりからしか出てこないっていう、こういう何か非常にアンバランスな状態になってるんでこれはなんとかしないと、アジアパシフィック RIGF とは呼べないのではないかっていうのは、ちょっと日本からももっと人出さなきゃなっていうような感じがしますっていうのに関連してると思うんですけど、関連してるって言っちゃいけないんだろうけど、そう思うのは、今回ワークショップの提案が 116 件ありました。この情報は多分来週出るのかな。来週になって出ると思うんですけど、そのうち採用されたのが 26 件ですから 26 件がセッションになるっていうことですね。実はこれ山崎さんも気にされたんですけど、CJK からの提案が 10 件しかない。やっぱり南アジアの方からの提案が多くて、CJK からの採用が 0 件でしたということで東アジアの visibility がほぼゼロっていう状態なので、多分これから提案書を来年頭にかけて書くんでしょうけど、二つの点で強力に進めなきゃいけないなって感じたのは、運営にもちゃんと関わっていかないと駄目だなっていうことと、あと、テーマそのものですね。テーマを持ち込むっていうところ両方に対して力をつけて臨まないと、何か観光業界のインバウンド問題みたいなものと同じ

ことになっちゃうんじゃないかと思いつつ今見ていますというちょっと周辺状況です。はい。以上です。

加藤：ありがとうございます。大変重要な情報でやはりかつ深刻な情報ですね。これ皆さんいかがでしょうか？採用はゼロだったんですか、CJK からは。

堀田：ええ、そうでしたね。そうですね、山崎さん。

山崎： はい 0 でしたっていうか、東アジアからのセッションの採用がゼロだったんで、ちょっと思わず会議で質問しちゃいましたけど、答えは大体開催国近辺から提案される傾向になりがちだと、そういう答えが返ってきました。逆に日本で開催して、日本からのセッションが少なかったらちょっと恥ずかしいなということになるかもしれないですね。そういう意味では。

加藤： わかりました。いかがでしょうか？実は私、この場所があと 4 分でぶつっと切れちゃうかも知れない状況でして、あと 3 分って言ってまして。 次回のスケジュールについてまず話をさせていただいてよろしいですか。次回 22 日か 29 日、これについては勉強会の候補者をベースに、どちらかに決めさせていただきたいと思いますが、皆さんそれでよろしいでしょうか？

堀田： はい。

加藤： ではその前提で。私自身はあと 2 分ぐらいで切れちゃうかもしれませんが、今の堀田さんの深刻な現状のご報告を受けて意見交換なりお願いしたいと思います。どなたかございますかね。出張されるご予約の方は、できれば情報交換のメーリングリストなりでいろいろと情報共有していただければと思いますが、そういう意味で私が出張しますというご予約の方は、ぜひこれも山崎さんに例によってお願いしてご連絡してよろしいですか？

山崎： はい。それは私の方で募るようにします。

加藤： はい。やはりいろんな情報交換した方がいいので、ぜひご出張のご予定がある方はメーリングリストに入れていただくと、いろいろと便利だと思います。あと何かございますでしょうか。スケジュールの中で、本チームの今後については先ほどの APrIGF の関連もありますけれども、引き続き本チームの今後については関係者でご検討いただいているというふうに理解しております。もしこれで切れたら最後の締めを前村さんお願いいたします。

前村： 承知しました。

加藤： あとご発言いかがでしょうか。皆様、すいません。今日は外で場所を借りていて、日程的にこういう状況になって後がないもんですから申し訳ありません。しかし何もないようであれば、このまま今回会合を終了とさせていただいて、次回 9 月 22 日か 29 日ということで、よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。